

**CONTENTS**

- 授業インタビュー ▶ 1
- 学外FD企画 参加レポート ▶ 2
- FD推進 活動レポート ▶ 2
- 平成27年度前期「授業アンケート」の実施
- FD交流会（事例発表）の実施
- FD講演会の実施
- 平成27年度後期「授業の公開・参観についてのアンケート」へのご協力について ▶ 4



## 授業インタビュー

本誌を通じて、それぞれの先生方の授業に対する考え方や様々な授業工夫について情報共有を図り、少しでもご参考になればという思いから、授業インタビューを実施しました。

発達教育学部教育学科心理学専攻 教授 吉村 英 先生

### 授業名★心理学研究法Ⅲ,Ⅳ

**内 容★**2回生を対象とした選択必修科目です。この授業では卒業論文を作成するときに必要となる統計学や調査法の理論と応用について学びます。アカデミックな心理学ではEvidence-basedであること、つまり具体的なデータ(Evidence)に基づいた研究を行うことが大切ですが、そのために必要となるデータの集め方や分析の仕方、発表の方法などについて体験的に学んでいきます。

**Q** 授業で心がけている点について教えてください。

**A** 多くの学生さんは数学に苦手意識を持っていらっしゃるようです。統計学という名前だけで拒否反応が出る方もいるようです。この授業では理論的な話をする場合でも、できるだけ数式や数字は使用せず、グラフやイメージを用いて直感的に理解して頂けるよう心がけています。また個人での作業とグループでの作業をバランスよく組み合わせることにより、お互いに助け合い、刺激を与え合うような雰囲気づくりをめざしています。

**Q** 特に工夫されている点がありますか。

**A** 授業ではSPSSというデータ解析ソフトを使用していますが、解りやすいように自作のテキストを作成し利用しています。このテキストは4回生の卒業論文作成の時まで使えるよう工夫されています。またこの授業は心理学の授業ですが、ここで身につける情報収集力、情報分析力、課題発見力、コミュニケーションスキルなどは汎用的なジェネリックスキルでもあり、社会に出てからも必要とされる社会人基礎力であるともいえます。授業ではこの点を繰り返し説明し、将来とのつながりを明確に意識しながら学習に取り組めるよう配慮しています。

**Q** どのようにして学生の自発的な学びを促していますか。

**A** この授業では数人でグループを作り、グループごとに興味、関心のあるテーマで調査を行います。テーマは自由ですが、調査票を作成するために必要となる先行研究などの情報は、各グループで自発的に集めなければなりません。また毎回の授業の初めに当日を含めた3~4回分のスケジュールを確認し、それぞれの授業での課題を明確に伝えます。授業時間中にできなかったものについては次回までの課題となります。さらにすべてのグループが自分たちの調査結果を発表する機会を設けています。発表の場では自分達で作成したレジュメを用いて説明を行い、他の受講者からの質問に答えます。グループ発表後はこの質疑応答の内容を取り入れながら、各個人が最終レポートを作成します。最終レポートは、個人の自発的な学びが反映されたものとなります。

**Q** 最後に一言（メッセージ）をお願いします。

**A** 一般に統計の授業は難しく退屈なものというイメージがあるようです。またどの大学でも教えることが難しい授業の一つであるとも言われています。この授業でもいろいろと工夫や努力はしていますが、まだまだ至らない点が多いと思います。これからも学生さんの声に耳を傾けながら、少しでも改善していきたいと思っています。

FD推進センターでは、FDに関連したセミナー、シンポジウム等の開催について案内しています。実際に参加された先生に、当日の様子や感想をお伺いしました。ぜひ、今後の参考としてください。

## ●武蔵野大学FDシンポジウム「大学知におけるアクティブラーニング」

日程：平成27年3月11日(水) 13時～16時50分 会場：武蔵野大学有明キャンパス

主催：武蔵野大学 教養教育リサーチセンター

発達教育学部児童学科 古池 若葉 教授



近年、大学教育において「アクティブ・ラーニング」が盛んに推奨され、私たち大学教員・職員も大学内外でアクティブ・ラーニングの研修を受ける機会が増えてきた。我が国におけるアクティブ・ラーニング推進の契機は、中央教育審議会による「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成24年8月28日）であると言える。答申の「求められる学士課程教育の質的転換」の項において能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換の必要性が指摘されて以降、本学のFD活動においてもアクティブ・ラーニングの推進が重要課題となり、関連する研修会、講演会等が実施されてきた。それらへの参加を通して筆者がアクティブラーニングについて抱いたイメージは、「学生が主体的に考えるように促す授業方法」というものであった。しかし、今回「武蔵野大学FDシンポジウム」に参加して、アクティブ・ラーニングの射程が授業方法にとどまらず、大学における「学びのシステム」をも含んでいるのだと認識を新たにした。

シンポジウムの構成は、森本あんり氏（国際基督教大学 学務副学長）の基調講演「大学知におけるアクティブラーニングとは」に始まり、事例発表が3件、最後にパネルディスカッションというものであったが、とりわけ基調講演が示唆に富んでいた。内容は、2008年に始まった国際基督教大学（ICU）の教学改革について、それがどのような理念と方法に基づいて行われ、改革の結果どのような効果が得られたかを、アクティブ・ラーニングの観点から論じるというものであった。ICUは教養学部一学部体制であり、改革前後でその体制に変化はない。しかし、改革前は教養学部の中にそれぞれ定員のある6学科が設けられていたのを、改革後は全員が一つの学科に入学し、2年次終了までに専攻（31専攻ある）を決める方式に変更した。その理念は、入学当初から一つの道だけを視野に入れるのではなく、多様な分野に触れさせ、揺さぶりをかけることにあるという。このような形態は他大学にも見られるが、特筆すべきは学生たちが専攻を決定し、卒業するまでのプロセスを支えるシステムである。

ICUでは、固定した学科を廃しメジャー制をとったが、そのねらいは自ら学びを企画する主体性と、複数分野を統合する能力を身につけることにあった。メジャーの構成の仕方には、メジャー、ダブルメジャー、メジャー・マイナーという組み方があるが、このようなシステムは、ともするとまとまりのない分野選択に陥る危険性がある。しかし、ICUでは「アカデミックプランニング・センター」を設置し、各専攻について精通している職員2名が学生の履修指導をすることで、学生が自らの学びを企画するのをサポートしているという。履修指導において役立つのが各学生の作成している「Academic Planning Essay」である。これは各学生の学修履歴に関する文書であり、入学直前から4年次にわたるまで各年次で作成される。その内容は次の通りである：Ⅰ. 入学直前「ICUでの学びの目標」「興味のあるメジャー」、Ⅱ. 1年次終わり「興味の変化の確認」「目標の再考」、Ⅲ. 2年次メジャー選択時「メジャー選択の理由」「次年度学修の展望」、Ⅳ. 3年次卒論アドヴァイザーの申請時「卒業研究の展望（テーマ・領域）」「進路選択」、Ⅴ. 4年次「振り返りと卒業後の目標設定」。学生自身もそれらの履歴を参考にしながら、自らの学びを企画していく。以上のメジャー制導入、アカデミック・プランニングセンターの設置、「Academic Planning Essay」の作成は、大学組織として制度化されたアクティブ・ラーニングのしくみであると言えるだろう。改革後の2010年3月にICU入学前の希望メジャーを調査したところ、国際関係学の希望者は全体の12%強と最も多かった（ちなみに2位のシェアは6%程度）。しかし、彼らが2年次を終了する2012年3月時点での選択メジャーは、国際関係学の選択が全体の4%弱になっていたという。1～2年次に多様な分野に触れることで学生の視野が広がり、興味が変わったことを物語っている。

学生のアクティブ・ラーニングをきめ細やかにサポートするICUのような制度は、学生対教職員比率に見られるマンパワーが大きくないと困難かもしれない。また、本学のように資格取得を目指す学生が多い教育の場においては、メジャー制のような専攻のあり方はなじまないかもしれない。しかし、本学が導入を予定しているポートフォリオに先の「Academic Planning Essay」的な機能をもたせて運用したり、ラーニングセンターにアカデミック・プランニングセンター的な機能を付加することは可能なのではないだろうか。「はじめに学科・資格課程のカリキュラムありき」ではなく、各学生の興味関心も尊重した主体的な学びをサポートするために大学組織として何ができるのか、という課題に気づかされた研修会であった。

### 1 平成27年度前期「授業アンケート」の実施

授業の改善、教育の質向上に資することを目的として、平成27年度前期授業期間に「授業アンケート」を実施しました。

【後期】実施期間：平成27年7月6日(月)～8月3日(月)

対象科目：平成27年度前期開講科目

（通年科目、前前半開講科目、受講者数10名未満の科目（希望する場合は実施可）は除く）

実施件数：1,204科目（なお、所見の提出は913科目〔※平成27年11月27日時点〕）

※科目数について…専任教員は、受講者数が10名以上のすべての担当授業（「演習科目」を含む）について実施。

非常勤講師は、任意に選択した1科目（1クラス）以上。

## ★「授業アンケート」の所見及び授業別の集計結果を本学Web上に公開しました！

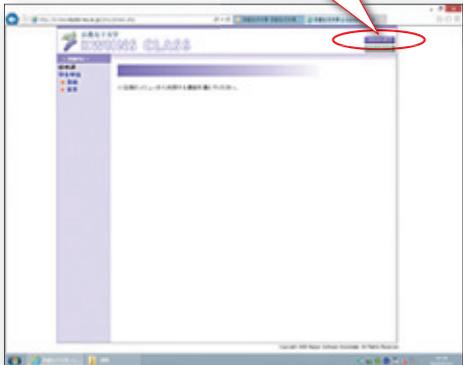
「授業アンケート」の集計結果に基づき執筆された所見について、11月中旬より学内Web上に公開しました。

具体的な閲覧方法については、学内Webの「修学Q&A」を選択の上、「授業評価所見を見たい」をクリックする検索方法をご覧ください。

【学内Web画面】



【KWIINS CLASS画面】



【検索方法（概略）】

- ①KWIINS CLASSにログインする。
- ②画面右上の「授業評価所見」をクリックし、授業評価所見検索画面に入る。
- ③教員名から検索する場合は「教員検索」をクリックし、担当者名を選択する。（教員検索は教員名を直接入力しても検索できません。必ず「教員検索」から検索してください。また、科目名から検索する場合は科目名を入力してください。）
- ④「検索」をクリックし、表示された科目を選択すると所見が表示されます。

また、今年度より、学生へのアンケート結果の公表及び学生の授業選択に資するため、自由記述項目入力データを除く授業別の集計結果について、11月下旬より学内Web上に公開しました。学内Webの「学籍・修学」ページ内にて公開していますので、ご利用ください。

## 2 FD交流会（事例発表）の実施

日時：平成27年10月21日(水) 14時45分～16時15分 会場：A校舎403教室

各学科・専攻などで実施されている「FDの取り組み」や、各教員が取り組んでいるFDについてその事例を発表し、他学科・専攻の取り組みの情報共有及び参考とするため、「授業の工夫について」をテーマとしたFD交流会（事例発表）を開催しました。

事例発表①では、発達教育学部教育学科の荒川恵子准教授より「産学連携PBL授業へのチャレンジ」と題し、今年度のキャリア教育の授業において試験的に行うこととなった、産学連携PBLを取り入れた授業について、授業の進め方や得られた成果、課題等、実践された内容を発表されました。

続いて事例発表②では、現代社会学部現代社会学科の嘉本伊都子教授より「「なぜ？」を鍛える工夫」と題し、学生にいかにか3つの基本（1）5W1H（2）記述と分析（3）何が問題か（問題提起、課題の設定）を身につけさせ、学ばせるかについて、実際に取り組まれている授業の進め方や工夫、資料やテキストの作り方、課題の出し方等を発表されました。

なお、当日は48名の教職員の参加がありました。次年度もテーマを設定し、本交流会を継続していきたいと考えております。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。



事例発表① 荒川先生



事例発表② 嘉本先生

## 3 FD講演会の実施

日時：平成27年11月25日(水) 14時45分～16時45分 会場：A校舎403教室

昨年実施した「FD講演会に関するアンケート」を参考に、次回聞きたいテーマとして要望が多かった「学生による授業評価（授業アンケート）について」をテーマに取り上げ、外部講師を招いて講演会を実施しました。

当日は、滋賀県立大学教育担当理事兼副学長の倉茂好匡先生を招き「授業評価アンケート結果 —どう見る？どう使う？—」と題して、授業アンケート結果を利用した取り組みについて、具体的にどのような取り組みをされているか、また、アンケート結果を踏まえた授業内容や方法等のブラッシュアップに関して、事例紹介を交えた講演がありました。

講演では、学生にとって魅力のある授業、また、そうでない授業について、それぞれ短時間でしたが模擬授業を実施され、黒板の書き方や教員の立ち位置等、授業運営の基本的なスキルを具体的に示していただき、講演後の質疑応答では活発な意見交換がされました。

当日は57名の教職員にご参加いただき、実施後のアンケート結果においては「授業の進め方や技法について、具体的・実践的に学べてよかった」との回答や「授業運営のスキルのヒントを得ることができた」との感想も寄せられました。

今後もFDに関するテーマを設定し、外部講師を招いた講演会を実施する予定です。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。



## ★学内Webにて当日の収録内容を公開しています！

交流会及び講演会の内容について、ビデオ収録を行いましたので、学内Web「教職員専用」の「FD推進センター」ページ内にて公開しています。ぜひご利用ください。

※コンテンツの視聴にはプレーヤーソフトウェア（Microsoft Silverlight）が必要です。

### 視聴までの流れ



①「教職員専用」ページにログイン



②「FD推進センター」ページにアクセス



③交流会又は講演会のページを開き、網掛け部分をクリック

## 平成27年度後期「授業の公開・参観についてのアンケート」へのご協力について

後期授業期間におきまして、お忙しい中、授業の公開・参観にご協力を賜り、ありがとうございました。

つきまして、今後の公開授業・参観実施の参考とさせていただきたく、アンケートにご回答いただき、下記提出先までご提出くださいますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 質問項目

- (1) 後期授業期間中に、授業の公開を行われましたか。  
また、公開いただいた場合はその授業名を、さらに参観者があった場合は、その人数をお聞かせください。
- (2) 後期授業期間中に、公開授業の参観を行われましたか。  
また、参観を行った場合は、授業名・担当教員名についてお聞かせください。
- (3) 授業の公開・参観に関するご感想や、お気づきの点等がございましたらお聞かせください。  
※但し、個人を誹謗中傷するようなご意見はお控えください。

### 提出先

教務部学部事務課 FD推進センター（担当：西山）  
e-mail：gakuji@kyoto-wu.ac.jp

## 学内Webにてバックナンバーをご覧いただけます！

平成21年度より発行している広報誌（FD Information）について、学内Webにてバックナンバーをご覧いただけます。学内Webの「教職員専用」からログインの後、「FD推進センター」ページ内にて公開していますので、ぜひご利用ください。



【学内Web「教職員専用」ページ画面】



広報誌（FD Information）のページを開くとバックナンバーをご覧いただけます。

### おわりに

FD推進にかかる取り組みについて、ご意見・ご要望などがございましたら、お気軽に事務局（FD推進センター）までご連絡ください。

また、FD推進委員会の委員の先生方を通じてご案内しております、他大学・団体等が開催するセミナーやシンポジウム等につきましても、FDへの理解を深める一助として、是非ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

- ◆発行日  
平成28年1月29日
- ◆発行者  
京都女子大学FD推進委員会
- ◆事務局  
教務部学部事務課 FD推進センター  
TEL：075-531-7045、9121  
E-mail：gakuji@kyoto-wu.ac.jp（学部事務課）  
nisiyama@kyoto-wu.ac.jp（担当：西山）

